

赤澤史朗（あかざわ・しろう）

一九四八年、東京に生まれる。

早稲田大学政経学部卒業後、同大学院文学研究科史学専攻に入学。

一九八六年、文学博士。

一九八八年、立命館大学法学部で日本政治史などを担当。

二〇一三年、立命館大学法学部定年退職。立命館大学名誉教授。

日本近現代史の宗教・神社問題、社会と文化、東京裁判、戦争責任、天皇制、戦没者の慰霊追悼、軍人恩給問題など、様々な問題をテーマとした。

『近代日本の思想動員と宗教統制』（校倉書房）、『靖国神社——せめぎあう〈戦没者追悼〉のゆくえ』（岩波書店）（後に岩波現代文庫）、『東京裁判』（岩波書店）、『文化とファシズム——戦時期日本における文化の光芒』（共編著）（日本経済評論社）、

『石原廣一郎小論——その国家主義運動の軌跡（一）（二）』（『立命館法学』）、『異端の仏教者——角張東順（月峰）論（一）（二）』（『立命館大学人文科学研究所紀要』）、『一九五〇年代の軍人恩給問題（一）（二）』（『立命館法学』）ほか。

二〇〇六年四月から二〇〇九年三月まで朝日新聞書評委員。『年報・日本現代史』編集委員。